

MESTRE-SALA / PORTA-BANDEIRA

翼ですよー。相変わらずブラジルで元気にやっております。今回は「メストリ・サラ & ポルタ・バンデイラ (Mestre-Sala e Porta-Bandeira : 以下 **M.S./P.B.**)」についてお話ししたいと思います。



Império de Casa Verde, 2005年までの旧モデル。



Império de Casa Verde, 新モデル。左から、pavilhão apresentação、pavilhão oficial、pavilhão enredo。



2006年1月14日 左から、Liberdade、Império de Casa Verde、Beija Flor

旗とシンボル

日本では escola de samba と関わりのない方は M.S./P.B.の存在すら知りませんし、関わりのある方でも「どうやら大切な役割らしいけれど、実際のところ何だかよくわからない...」という印象を持つのが普通ではないでしょうか。彼らが掲げているバンデイラ (bandeira : 旗) が重要だということは何となく伝わってくると思いますが、そもそも旗って何でしょう。見方によっては布切れ一枚に過ぎません。escola de samba の場合は刺繍や多少の装飾がされている旗を用いているのが一般的ですが、それでも決して高価なものではありませんし、やっぱり、ただの布なんです。キーワードは「意味付け」、そして、その度合いかもしれません。

世界中には様々な「シンボル」が存在しています。国旗、校旗、家紋もしくはスポーツチーム、ブランド製品、企業のロゴマークはその例です。宗教もやはり何かしらのシンボルを持っています。シンボルというのはある集団や組織の存在を最も明確に表現する (象徴する) ものであり、それが描かれている旗は、それ自身が集団の存在証明ともなります。また、旗を並べることで「友好」を象徴されることもできます。物事を始める時、戦を始めるときに使われるような「旗を揚げる」という言葉、イラク戦争の時に話題になった「Show the flag」という踏絵のフレーズや、「白旗 (つまりシンボルや色のない旗) を揚げる」という言葉もやはり旗にまつわることです。escola de samba では旗を pavilhão (パヴィリャオン : 船に掲げる国籍表示旗の意) という言葉で呼ぶ場合があります。大袈裟なのではなく、それだけ強い意味が込められているということです。

所属愛とシンボル

人間は本能的に所属愛というものを持っているので、シンボルに感情的な意味付けをする場合があります。つまり自分自身の存在証明としてのシンボルです。ブラジルの場合は愛国心が強いのでブラジル国旗を誰もが愛します。更に escola de samba の場合は、シンボルに、つまり pavilhão に感情的な意味付けを強くしている印象があります。経済的な問題も含め、やりきれなさ、悲しみ、満足のいかないことを癒す comunidade の存在は、凝縮性の強いものになりますし、その人自身を支える命の源となりますので、escola のシンボルは生きていく証ともなり得るのではないのでしょうか。そうともなれば、宗教性が帯びてくることになり得ますから、偶像崇拜と似たような現象、つまり pavilhão の神聖視が生じてくるわけです。とにかく旗というのは、シンボルが描かれ、掲げられた瞬間に、一枚の布から全く違ったものに生まれ変わる場合があるということです。

日本の場合、まず「日の丸」に関してはデリケートな問題がありますので、そこにはあまり言及できませんが、一般的に所属愛自体が薄れてきていますので、自分の所属する国家、企業、団体、学校などのシンボルへ特別な感情を投入するということはあまりないかもしれません。ですから

ラジル人とは生まれも育ちも価値観も違う日本人が、escola の pavilhão そのものに「敬意」を感じるとするのは、いささか無理な話なのではないでしょうか。

PAVILHÃO を扱う二人、そして演劇性

直訳は難しいところですが、M.S.は「集団を司る者」、P.B.は「旗を掲げる者」という言葉で表現できます。escola 内では合わせて“casal (casais)”と呼ばれています。役割は、pavilhão を掲げることで comunidade に向けて escola の存在確認をすることと、外の人間に向けての escola の存在を誇示すること（もしくは友好を築くこと）です。M.S./P.B.はそれらをダンスという形で表現するわけですが、僕はダンスという言葉よりも teatro（演劇）という言葉が適していると思っています。極端に言ってしまうと、P.B.が右腕に掲げているモノへの意識、それを取巻く空間創りの意識は必要であっても、ダンスを介した自己表現の意識は必要ありませんから（突き詰めれば、それ自体が最大の自己表現なわけなんですけれど...）

M.S./P.B.の動きは、昔の宮廷舞踊をイメージしたものと言われています。escola によって、また mestre（先生、師）によって形が異なりますし、時代と共に、より自由なものへと変化しているのではと思います。しかし、誰が見ても、息を呑むような素晴らしい M.S./P.B.というのは存在しています。そこでハッキリ言えるのは、やはり大切なことはダンスの細かい技術云々ではないということです。pavilhão が美しく輝くような空間を創り上げる M.S./P.B.、pavilhão をこよなく愛し敬意を表現する（ように見える、つまりその演技ができる）M.S./P.B.はどんなダンスをしても、どんな遊びを入れても美しく見えるし、逆に踊らなくても美しく見えますから。

M.S./P.B.の就任

ところで、escola の M.S./P.B.をどうやって決めるのでしょうか。これに関しては escola ごとに違いますし、またタイミングによっても違いますので一概には言えません。presidente の推薦、既存の M.S.もしくは P.B.の推薦、募集とオーディション、他の escola からの引き抜き、M.S./P.B.育成を目的とした escola からの引き抜きなど色々あるので、これという決まりはありません。僕の場合は、僕の P.B.の Katia が推薦をした形で少しずつ決まりました。設立時の primeira P.B.ですので、力があつたのではと思います。ただし、先日聞いた話ですが、最初は diretor 陣の反対があったそうです。その後、パフォーマンスを見て正式に決まったという感じです。ちなみに、primeiro casal は今年のカニバル直前に引き抜かれた2人です（来日経験のある Vai Vai に所属していた兄弟ですので、ご存知の方もいるかと思いますが）長年 Império de Casa Verde の primeiro casal を務めていたペアが年明けに escola を去り、どの escola にも所属していなかったその2人が引き抜かれたわけです。とにかく色々あるんです。



新しいPrimeiro casal, Renato (右)とFabiola (中央)

ちょっとしたお願い

上記に escola の旗に「敬意」を感じるのは日本人の感覚では難しいと表現しましたが、一つだけお願いがあります。不自然に“そうしなくてはいけない”と思う必要はありません。ですが、bandeira そのものに「親近感」を改めて感じてもらいたいです。こよなく samba を愛する老若男女の集まる Liberdade というコミュニティは、生活の中にどんな心の潤いをもたらしているのでしょうか。自分にとってどんな存在でしょうか。Liberdade のシンボルが掲げられ、それが舞っている姿を、Liberdade がまさにそこに存在している姿を、そんな視点から眺めて見てはいかがですか。Liberdade そのものを抱きしめるように、bandeira を心で抱きしめてみてください。